

学科基礎科目の目次 (2017年度以前入学生用)

このシラバスは、旧カリキュラム(16E・17E)の科目区分別に編成されています。15E以前の学生が旧カリキュラムの科目を履修する場合には、当該科目が旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

また新カリキュラムのスタートにより、一部科目の名称が変更となっています。履修する場合には、当該科目が旧カリキュラムまたは旧々カリキュラムのどの授業科目に対応しているかを開講科目一覧で確認すること。

経済学科

統 計 学	学 ……	1	経 済 と 数 学	学 ……	2
ミ ク ロ 経 済 学	Ⅱ ……	3	マ ク ロ 経 済 学	Ⅱ ……	4
政 治 経 済 学	Ⅰ ……	6	計 量 経 済 学	Ⅰ ……	7
経 済 政 策	Ⅰ ……	8	社 会 政 策	A ……	9
財 政 学	A ……	10	金 融 論	Ⅰ ……	11

経営システム学科

経 営 戦 略 論	A ……	12	原 価 会 計 論	……	13
経 営 学 原 理	……	14	現 代 企 業 論	……	16
リ ス ク と 保 険	……	17	経 営 組 織 論	A ……	18
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	A ……	19	流 通 シ ス テ ム 論	A ……	20
会 計 学 総 論	……	22	管 理 会 計 論	……	23

地域社会システム学科

観 光 学 概 論	……	24	文 化 社 会 論	……	26
人 間 論	……	27	日 本 社 会 経 済 史	……	28
社 会 と 言 語	……	30	ま ち づ ぐ り 論	……	32
外 国 語 演 習 Ⅰ (英 語)	……	34	外 国 語 演 習 Ⅰ (ド イ ツ 語)	……	35
外 国 語 演 習 Ⅰ (フ ラ ン ス 語)	……	36	外 国 語 演 習 Ⅰ (中 国 語)	……	37
外 国 語 演 習 Ⅰ (韓 国 語)	……	38	エ コ ツ ー リ ズ ム 論	……	39

ナンバリングコード B1STT-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310151) 統計学 Statistics 統計学の基礎	科目区分	時間割 後期末5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1STT	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門	
	履修推奨科目	統計学入門	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 統計学の基礎は大きく記述統計と統計的推測に分けられる。このうち「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計を中心に学習する。「統計学」では標本を取り出してそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測について学習する。この2科目で大学学部基礎レベルの統計学を学習する。			
授業の目的 全ての判断の根拠を問えばそれは統計学である。実際のデータの持つ情報を読み取り、判断のよりどころを得るための方法を身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1年次前期の「統計学入門」では、データを加工しデータの持つ情報を読み取る記述統計の考え方が理解できるようになる。1年次後期の「統計学」では、標本を取り出しそれをもとに母集団の特性を推し測る統計的推測の考え方を理解できるようになる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(100点満点)による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業の方法】 講義ノートによる板書講義。テキストはその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。宿題を出す場合がある。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。			
【授業計画】 第 1 回. 母集団と標本 第 2 回. 確率と確率変数(確率の定義, 条件付き確率と独立性, 確率変数の定義) 第 3 回. 確率分布(ベルヌーイ分布, 二項分布, 確率分布の平均と分散) 第 4 回. 大数の法則(確率変数の期待値と分散, 大数の法則) 第 5 回. 中心極限定理(標本平均の分布, 標本平均の平均と分散, 正規分布) 第 6 回. 正規分布(標準正規分布と正規分布表, 正規分布の確率計算) 第 7 回. 正規分布以外の分布(カイ2乗分布, t-分布) 第 8 回. 標本平均値の分布 第 9 回. 後半イントロダクション(統計的推測とは何か), 母数の点推定(不偏性) 第10回. 母平均の区間推定(母分散既知の場合) 第11回. 母平均の区間推定(母分散未知の場合) 第12回. 母分散の区間推定(F-分布) 第13回. 統計的仮説検定(母分散既知の場合) 第14回. 統計的仮説検定(母分散未知の場合) 第15回. 調査結果の表現 [期末試験]			
【自学自習に関するアドバイス】 予習はしなくていいが、授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが、それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものとする。			
教科書・参考書等 教科書:『プレステップ 統計学II 推測統計学』, 稲葉由之著, 弘文堂, 定価1800円+税			
オフィスアワー 火曜日 4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 「統計学入門」と「統計学」の2科目で、大学学部基礎レベルの統計学を学習する。前期の「統計学入門」を必ず履修しておくこと。 2. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。 3. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。			

ナンバリングコード B3ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 310130) 経済数学 Mathematics for Economics 経済と数学 Economics and Mathematics	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B3ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 ラナデ	関連授業科目	ミクロ経済学・マクロ経済学およびその関連科目	
	履修推奨科目	履修にあたって必要とされる科目はありません。	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済学ではツールとして数学が積極的に活用されています。しかしこの点が経済学を学習する際の障害になる場合も多いようです。そこでこの講義では、経済学を学習するための数学的トレーニングとして線形代数の基本的内容を、経済学における活用例を素材に学びます。 高校数学の復習から始め、経済学では数学をどのように使うのかを例を交えながら解説します。			
授業の目的 授業の目的・達成目標 1. 線形代数の基本的内容の学習を通じて、経済学における記号・数式・グラフの使い方を身につけること。 2. 数学への苦手意識がある人は、それを解消すること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 直線について問題をとける。 2. 行列は専門的につかえる。			
成績評価の方法と基準 宿題&class-work (4割) と期末試験 (6割) により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業及び学習の方法 授業は主に板書によります。宿題&class-workとして演習問題を課します。 予習は不要ですが、毎回復習してわからないことをなくすことと、演習問題を解くことが必要です 1. 産業連関表 (2回) 2. ベクトルと行列 (4回) 3. 逆行列と連立方程式 (4回) 4. 行列の固有値 (3回) 5. 行列ゲームと線形計画法 (2回) 6. まとめ (1回)			
進行状況により、変更をする可能性があります			
教科書・参考書等 教科書は使用しませんが、参考書は以下のものです。 石村園子 (2000) 『やさしく学べる線形代数』 共立出版。 その他参考書については開講時に紹介します。			
オフィスアワー 毎日18時以降			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の注意は初回授業で説明します。			

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312411) ミクロ経済学Ⅱ Microeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目	ミクロ経済学Ⅰ	
	履修推奨科目	経済数学入門、経済数学、ミクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。経済学部で開講される様々な科目が、ミクロ経済学とマクロ経済学を土台としています。 ミクロ経済学では、経済を構成する個々の経済主体の行動に焦点をあてた分析を行います。すなわち、個々の家計や企業がどのように経済活動にかんする意思決定を行い、これらの経済主体の間にどのような相互関係があるのかを考察します。とりわけ、この相互関係において「市場（マーケット）」が果たす役割を考えます（これに対しマクロ経済学は景気や失業率など国全体の経済に焦点をあてます）。 ミクロ経済学ⅠとⅡでミクロ経済学の全分野の基礎をカバーします。後半の本講義では、(1)企業の行動、(2)一般均衡分析、(3)ゲーム理論と不完全競争、(4)市場の失敗、の各トピックを扱います。			
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解する。特に、企業の行動、一般均衡分析、ゲーム理論と不完全競争、市場の失敗の各トピックを習得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学の観点から、企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 ・市場均衡が持つ資源配分のメカニズムを、簡単な一般均衡の枠組みを用いて説明できる。 ・戦略的状況とはいかなるもので、そこでプレイヤーがどのような行動をとると考えられるか、ゲーム理論の手法を用いて説明できる。 ・市場の失敗とはいかなるもので、その解決のために経済政策がどのように有効となるか、ミクロ経済学の観点から説明できる。 			
成績評価の方法と基準 宿題（30%）、期末試験（70%）により評価します。詳しくは初回授業時に指示します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 授業資料をMoodleで公開するので、各自印刷し持参してください。授業は主に資料とプロジェクタ投影を用いて進めていきます。宿題として演習問題を課します。 予習は必ずしも必要ではありませんが、毎回復習してわからないことをなくすことと、宿題を解いて理解を深めることが必要となります。 また、単に授業内容を学習するのみではなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を自ら考える姿勢が求められます。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の行動（4回） （キーワード：生産関数、利潤最大化、総費用曲線、可変費用曲線、損益分岐点、操業停止点） 2. 一般均衡分析（3回） （キーワード：エッジワースボックス、パレート効率、契約曲線、厚生経済学の基本定理） 3. ゲーム理論と不完全競争（4回） （キーワード：戦略、ナッシュ均衡、クールノー競争、ベルトラン競争、後ろ向き帰納法） 4. 市場の失敗（3回） （キーワード：外部性、社会的限界費用、コースの定理、ピグー税） 5. まとめ（1回） 			
回数はおおよその計画であり、進行状況によっては若干の変更をする可能性があります。			
教科書・参考書等 特定の教科書は指定しないが、下記の書籍等から自分の好みのものを1冊以上選び、講義と並行して精読すること。 芦谷政浩『ミクロ経済学』、有斐閣、2009年、3100円＋税 神取道宏『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年、3200円＋税 その他は初回授業時に指示します。			
オフィスアワー 月曜日 4時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容は連続しているため、前回までの内容をしっかり理解していないとついていけなくなります。 2. その他の注意事項は、初回授業時に指示します。 			

ナンバリングコード B1ECN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312412) マクロ経済学Ⅱ Macroeconomics Ⅱ	科目区分	時間割 後期金3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1ECN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮崎 浩一	関連授業科目	ミクロ経済学I、ミクロ経済学II、 マクロ経済学I、上級マクロ経済学、 金融論、金融政策、経済政策	
	履修推奨科目	経済数学入門、ミクロ経済学I、 ミクロ経済学II	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経済学における2つの柱(ミクロ経済学とマクロ経済学)の1つであるマクロ経済学について学びます。ミクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動などを分析しますが、マクロ経済学では、個人や個々の企業の経済活動が集計された一国全体の経済活動に注目します。例えば、「景気が悪くなった場合、どのような政策を国はとるべきか?」や「なぜある国は富み、ある国は貧しいのか?」というような疑問にマクロ経済学は答えを与えようとする学問です。マクロ経済学IIでは、特に「失業」「物価」「経済成長」という点に焦点をあてて講義を行う予定です。			
授業の目的 世の中には日本や諸外国の経済状況や経済政策に関するニュースで溢れています。この講義を受講することでそのようなニュースを正確に捉えることができるようになり、経済はどのように動いているのかを自分で判断するのに役に立つでしょう(DPの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」)。また、今後、マクロ経済学関連の科目(上級マクロ経済学、金融論、金融政策、経済政策など)を履修する際にこの講義で学んだ知識が役に立つでしょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・「失業率」がどのように計測されるのか理解し、なぜ失業が起こるのか説明できるようになる。 ・「物価指数」がどのように計測されるのか理解し、インフレ・デフレの社会に及ぼす影響を説明できるようになる。 ・各国ごとの生活水準の違いの測定方法を理解し、どうすれば貧しい国を助けることができるか経済学的な考えに基づいて提案できるようになる。 			
成績評価の方法と基準 3回のクラス内小テスト(各10%)と期末試験(70%)で判断します。その他、ボーナスとして課題をいくつか出すかもしれません。ただし、受講状況や人数に応じて変える可能性があります。詳細は初回の講義の時に説明します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義はレジュメと板書を使用する予定です。講義前には、当日の講義のレジュメをホームページ(Moodle上に作成予定)上で配布する予定です。 提出不要の練習問題がほぼ毎週ホームページ上で配布されるので、講義の復習と試験の準備に役立ててください。以下に講義計画を挙げます。なお、以下の講義計画は進行状況により変更する可能性があります。			
第1回: ガイダンス、雇用と失業 (1) 第2回: 雇用と失業 (2) 第3回: 雇用と失業 (3) 第4回: 雇用と失業 (4) 第5回: 小テスト (1)、物価指数とインフレ・デフレ (1) 第6回: 物価指数とインフレ・デフレ (2) 第7回: 物価指数とインフレ・デフレ (3) 第8回: 物価指数とインフレ・デフレ (4) 第9回: 小テスト (2)、総所得 (1) 第10回: 総所得 (2) 第11回: 総所得 (3) 第12回: 小テスト (3)、経済成長 (1) 第13回: 経済成長 (2) 第14回: 経済成長 (3) 第15回: 経済成長 (4) 第16回: 期末試験			

【自学自習に関するアドバイス】

- ・講義内容は積み上げ式なので、わからない箇所が出てきたら、なるべく早く疑問を解決するように心がけてください。後回しにするとわからない部分がどんどん増えてしまいます。解決方法としては、いろいろとあると思いますが、講義担当者やよく理解しているクラスメートに聞くのが手取り早いと思います。
- ・提出不要の練習問題が出ますので、それを利用してしっかり復習してください。中間試験や期末試験前にまとめてやるのではなく、配布されたらできるだけ早めに手を付けましょう。
- ・経済ニュースを読む習慣を付けましょう。この講義で学んだことを利用してニュースに書かれてあることが理解できるかどうか、チェックしてみましょう。

教科書・参考書等

教科書は特にありません。

その他、参考書として

- ・アセモグル・レイブソン・リスト『マクロ経済学』東洋経済新報社、3800円＋税
 - ・平口良司、稲葉大『マクロ経済学：入門の「一歩手前」から応用まで』有斐閣ストゥディア、2,000円＋税
 - ・伊藤元重『マクロ経済学』第2版、日本評論社、2,800円＋税
 - ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門』（第5版）、有斐閣アルマ、2,200円＋税
 - ・マンキュー『マクロ経済学1：入門編』（第4版）、東洋経済新報社、3,800円＋税
 - ・斎藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学』有斐閣、3,900円＋税
- を挙げておきます。

オフィスアワー 毎週月曜日14時から16時に、南2号館3階の研究室で対応します。それ以外は事前にメールでアポを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・授業中、私語は厳禁ですが、質問やコメント等の発言は積極的にしてください。講義が楽しくなります。また、あなたの質問がみんなの理解を深めることとなります（あなたの持つ疑問は、大抵、他の受講者も疑問に思っています）。
- ・小テストの追試は行わない予定ですので、忘れないように受験してください。
- ・授業時間中のスマホや携帯電話の使用は禁止します。

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312031) 政治経済学 I Political Economy I	科目区分	時間割 前期月4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目	政治経済学Ⅱ	
	履修推奨科目	政治経済学Ⅱ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 マルクス経済学の方法に基づき、資本主義の原理についての基礎的な講義を行なう。資本主義とは、市場を中心とした経済システムである。このような経済システムは普遍的なものではなく、資本主義以前には、市場は社会の付属物にすぎなかった。資本主義は、歴史上のある時点に成立した特殊な経済システムなのである。たとえば、店頭に並んでいる商品や財布のなかの貨幣は、一見すると、当たり前のあるふれたものに見える。しかし、資本主義を特殊歴史的なシステムとして捉えるならば、決して自明のものでないことが分かってくる。この講義では、商品、貨幣、資本などの資本主義の諸要素を当然の前提とするのではなく、「なぜ商品には価格がつくのか」、「市場に貨幣が存在する理由は何か」、「資本はどのようにして利潤をあげることができるのか」といった一見単純だが、決して簡単ではない問題についてじっくりと考えていく。			
授業の目的 われわれが目目の当たりにする現実の資本主義は、きわめて複雑である。本講義では、マルクス経済学の基礎的知識を習得すると同時に、この複雑さの背後にある資本主義の基本構造を理解するために必要な抽象的思考力の獲得を目指す。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・マルクス経済学の方法上の特徴を述べることができる。 ・マルクス経済学の基本的概念を説明することができる。 ・剰余価値の発生メカニズムを論理的に説明することができる。 			
成績評価の方法と基準 小テストと期末試験によって評価を行なう。配点は、小テスト20点、期末試験80点とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 板書および口述筆記による。 0. ガイダンス (政治経済学とは何か) (1回) 1. 政治経済学の対象と方法 (2回) 2. 商品とは何か (1回) 3. 貨幣の機能 (2回) 4. 資本の形式 (2回) 5. 労働と生産 (2回) 6. 価値形成・増殖過程 (2回) 7. 剰余価値の生産 (2回) 8. 資本主義的生産方法 (1回) 期末試験 【自学自習について】 自筆ノートおよび授業後web上に掲載する講義概要に基づく復習が中心となる。			
教科書・参考書等 教科書：使用しない 参考書：小幡道昭『経済原論』（東京大学出版会） 沖公祐『「富」なき時代の資本主義——マルクス『資本論』を読み直す』（現代書館）			
オフィスアワー 初回時に指定する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 「政治経済学Ⅱ」を併せて受講することを強く推奨する。			

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312111) 計量経済学 I Econometrics I 計量経済学入門	科目区分	時間割 前期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 久松 博之	関連授業科目	統計学入門, 統計学, マクロ経済学 I	
	履修推奨科目	統計学入門, 統計学, マクロ経済学 I	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 計量経済学 (Econometrics) の基礎について講義する。経済理論 (仮説) が、現実の経済の動きをうまく説明しているかどうか検証するための統計学的手法を身につける。			
授業の目的 計量経済学の基本的な考え方を習得し、実際の経済統計データを使って計量経済分析ができるようになる。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> 基本統計量, 散布図と相関係数を理解する。 回帰モデルと最小2乗法の考え方を理解する。 Excelを使って回帰分析ができるようになる。 			
成績評価の方法と基準 期末試験 (100点満点) による。課題レポートや宿題を課す場合は、それらの得点を期末試験得点に加算した総合得点が60点以上を合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【講義の方法】 講義ノートによる板書講義。教科書はその都度参照する。配布資料を使って説明する場合がある。宿題を課す場合がある。Excelを使って処理する課題レポートを課す場合がある。</p> <p>【講義計画】 第1回: 計量経済学とは何か 第2回: 経済統計データについて 第3回: データの整理 (1): 基本統計量: 平均, 分散ほか 第4回: データの整理 (2): 散布図と相関係数 第5回: 最小2乗法: 散布図への回帰直線のあてはめ 第6回: 最小2乗法: 最小2乗推定量 第7回: 回帰分析の各種指標 (1): 決定係数 第8回: 回帰分析の各種指標 (2): t-値 (t-検定) 第9回: 単回帰モデルの推定: 実証分析の進め方 第10回: モデルの仮定と最小2乗推定量の性質 第11回: 回帰分析の各種指標 (3): 自由度修正済み決定係数 第12回: 回帰分析の各種指標 (4) 誤差項の系列相関とダービン・ワトソン検定 第13回: 単回帰モデルから重回帰モデルへ 第14回: 重回帰モデルの推定 第15回: 授業の総括と計量経済学Ⅱへ向けて [期末試験]</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 予習はしなくていいが、授業中取ったノートをもとに授業内容を復習すること。宿題を出す場合があるが、それは予習ではなくもっぱら復習の手助けになるものとする。</p>			
教科書・参考書等 教科書: 『入門計量経済学』 山本拓・竹内明香著 新世社 定価2500円+税 参考書: 随時指示する。			
オフィスアワー 火曜日4限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 1. 統計学入門, 統計学の単位を取得している方が望ましい。 2. 質問がある場合は必ず自筆のノートを持参すること。 3. スマホ・携帯のカメラ機能での板書撮影を禁止する。			

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 312125) 経済政策 Economic Policy	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 岡田 徹太郎	関連授業科目	(特) 比較経済政策	
	履修推奨科目	政治経済学I	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 経済政策の基本的な枠組みについて解説する。 受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。 アクティブラーニングを導入し、授業内容への深い理解に結び付けるためのグループ討論を行なう。座席を指定席とするので指示に従うこと。			
授業の目的 経済政策の基礎を理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 経済政策の基礎について説明できる。 2. 政府の役割や機能について説明できる。 3. 経済政策の課題について説明できる。			
成績評価の方法と基準 グループワークへの取り組み20点、レポート20点、小テスト10点、期末試験50点の合計100点満点とし、学則にしたがった成績をつける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業計画 <p>板書筆記・口述筆記による。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済学と経済政策 (2) 経済学とは何か (3) 経済政策とは何か (4) 経済政策を理解するためのキーワード(国民経済計算) (5) 経済政策を理解するためのキーワード(雇用統計) (6) 政府を概観する (7) 政府の役割 (8) 市場の失敗 (9) 政府の失敗 (10) 政府の課題 (11) 日本経済をめぐる課題 (12) 長期不況とデフレ経済 (13) 長期不況からの脱出 (14) 経済政策をめぐる諸問題 (15) 新時代の経済政策 <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習に関するアドバイス <p>講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること。加えて、講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること。</p>			
教科書・参考書等			
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策 (第4版)』有斐閣ブックス, 2011年, 2900円。 ・参考書 経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版、を指定する。 			
オフィスアワー 火曜日IV時限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 大教室におけるアクティブラーニングで学修します。授業に積極的に関わってください。			

ナンバリングコード B2ECN-badE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312131) 社会政策A Social Policy A	科目区分	時間割 後期末2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 badE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 佐藤 忍	関連授業科目	社会政策B	
	履修推奨科目	経済政策、財政学、福祉経済論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 私たちはこれからいろんな試練を乗り越えなければならない。まず最初に、就職という難関が待っている。希望どおりに就職できたとして、今度は厳しい競争社会のなかで生活の糧を稼がなければならない。死ぬまで働き続けるわけにもいかない。老後はどうする？ 私たちは生活上の諸問題をいろんな手段で解決しなければならない。自分自身で処理できることもあれば、他者の助けを必要とすることもある。市場経済による処理はそのひとつである。家族、仲間、企業などの内部における相互扶助もある。そして政府も一定の枠組みを提供している。社会政策とは、生活上の諸問題を処理するための社会的な働きかけであり、仕組みである。 この社会政策Aでは、社会政策(Sozialpolitik)という政策概念について、歴史と現状の両面から、講義する。			
授業の目的 社会政策とは、「生きる」「働く」「老いる」といった私たちの生活のあり方を根底から規定する諸政策の総称である。この授業は、社会政策の史的展開を踏まえて今日の課題を探究することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 生活保護の仕組みを説明できる。 2. 現代の貧困について自分のこととして理解できる。			
成績評価の方法と基準 練習問題(宿題)、期末試験等に基づき総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記と板書による。 ガイダンス……………(1) I 社会政策とは (1) 社会というもの……………(2) (2) 政策という働きかけ……………(3～4) II 社会政策の諸領域 (1) 生きる 1. 救貧法……………(5～6) 2. 公的扶助……………(7～8) 3. 現代の貧困……………(9～10) (2) 働く・老いる 1. 工場法……………(11) 2. 最低賃金……………(12) 3. 社会保険……………(13～14) まとめ……………(15)			
香川労働局の講演のほか、現在の身の回りの社会問題に関連するビデオ鑑賞を適宜授業の進行に合わせて組み入れる。			
教科書・参考書等 使用しない。 小川喜一編『社会政策の歴史』有斐閣、1977年。 玉井金五・大森真紀編『新版 社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2004年。 成瀬龍夫『総説 現代社会政策』桜井書店、2006年。			
オフィスアワー 火曜3時限目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 現実の身のまわりの生活の中に様々な形で社会政策が滲透していることを、そして同時に様々な問題を抱えていることを実感し、確かめながら、受講してください。			

ナンバリングコード B2ECN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312141) 財政学A Public Finance A	科目区分	時間割 前期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 長山 貴之	関連授業科目	財政学B	
	履修推奨科目	ミクロ経済学Ⅰおよびマクロ経済学Ⅰ	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 財政学は租税論、公債論、予算論、経費論、財政政策、地方財政論などから構成されるが、この講義は主として租税論を取扱う。詳細な理論的分析ではなく広範な制度的解説を行うことを心掛ける。具体的には、我が国の基幹税の仕組みを一通り教える。例えば、所得税、相続税、贈与税には累進税率が、法人税には比例税率が、それぞれ採用されている。また、消費税には比例税率が採用されているが、所得に対する逆進性がある。なお、この講義はミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的知識を前提にする。			
授業の目的 租税に関する主要な制度を理解する（DPの「知識・理解」に対応）と共に、それらの制度が抱える課題を探究できるようになる（DPの「問題解決・課題探究能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 租税に関する主要な制度を説明できる。 (2) 租税に関する主要な制度が抱える課題を分析できる。			
成績評価の方法と基準 期末課題および期末試験。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業方法】 資料を配付し、板書で補足する。 【授業計画】 (1) 租税の概念 (2) 日本の税制 (3) 所得税Ⅰ (4) 所得税Ⅱ (5) 所得税Ⅲ (6) 所得税Ⅳ (7) 所得税Ⅴ (8) 法人税Ⅰ (9) 法人税Ⅱ (10) 消費税Ⅰ (11) 消費税Ⅱ (12) 消費税Ⅲ (13) 相続税 (14) 贈与税 (15) まとめ			
教科書・参考書等 なし。			
オフィスアワー 月曜日3時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語厳禁。			

ナンバリングコード B2ECN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 312151) 金融論 I Monetary Economics I	科目区分	時間割 前期金2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2ECN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目	金融論 II	
	履修推奨科目	金融論 II、金融政策 I・II	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 この授業では、教科書に沿って、大きく、貨幣と金融取引、取引費用に対処する金融の仕組み、金融機関について学ぶ。具体的には、貨幣と決済、金融とその機能、取引費用とリスク、情報の非対称性と返済のリスク、流動化・証券設計・情報生産や担保・保証や分散化などの金融の仕組み、そして金融機関の1つである金融仲介機関について学ぶ。適宜、世間で話題になっているホットトピックスを「現実の金融問題」として紹介する。			
授業の目的 ・貨幣と決済について理解する。 ・金融とその機能について理解する。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて理解する。 ・金融仲介機関について理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
・貨幣と決済について説明できる。 ・金融とその機能について説明できる。 ・取引費用に対処する金融の仕組みについて説明できる。 ・金融仲介機関について説明できる。			
成績評価の方法と基準 中間試験94点・期末試験94点、感想文12点の合計200点満点で評価する（ただし中間試験を受けていても、期末試験を受験しなかった学生は成績評価の対象としない）。定期試験では、教科書からの出題は、重要語句や重要な論点を理論的に自分の言葉で説明できることを中心に要求する。現実の金融問題からの出題は、その出来事の流れを理解していること、またそれらと教科書の内容との関連性を説明できることを要求する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に教科書の要点を板書しながら説明する。現実の金融問題については、ビデオやパワーポイントで説明し、学生に感想を書いて提出してもらおう。			
第1・2回 ガイダンス、貨幣と決済 第3・4回 金融とその機能 第5回 取引費用とリスク 第6回 情報の非対称性と返済のリスク 第7回 金融の仕組み (1) 流動化 第8回 中間試験 第9回 金融の仕組み (1) 証券設計、情報生産 第10回 金融の仕組み (2) 担保、保証 第11・12回 金融の仕組み (3) 分散化 第13・14回 金融機関 (1) 金融仲介機関 第15回 まとめ、予備日			
上記の内容に加えて、適宜、現実の金融問題を盛り込む予定である。 (以上は大まかな予定であり、小さな変更の可能性はある)			
【自学自習に関するアドバイス】 ・予習・復習として教科書の相当部分を熟読する。 ・現実の金融問題の際に配布した資料と教科書の関連性を考え、さらに詳しい情報を自分でも調べてみる。			
教科書・参考書等 (教科書) 内田浩史 (2016) 『金融』有斐閣、3400円 (税別)。金融論 I ではこの本の第1章～第8章までを取り扱う予定である。また金融論 II (後期開講) でも同じ教科書を用い、残りの章を取り扱う予定である。			
オフィスアワー 最初の授業で周知する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 金融論 I と金融論 II はセットで受けてほしい。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード:322199) 経営戦略論 Management Strategy	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 向 滄	関連授業科目	経営組織論	
	履修推奨科目	経営組織論	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 本講義は、企業の基本的方向性を設定する経営戦略に焦点をあて、これまでの経営戦略論における論点を提示し、企業の経営戦略に関するさまざまな分析手法について講義を行う。			
授業の目的 本講義は、経営戦略論を理解するための枠組み、概念、理論を学ぶ。また、有効な経営行動の表示、それがなぜ有効なのかの理論的考察も行うと同時にディスカッションを行うための知識を習得しながら、経営戦略論への理解を深める。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の目標は2つあります。 ①経営戦略論の基本的な考え方や理論を理解できている。 ②それを用いて問題を解決するための能力を身につける。			
成績評価の方法と基準 課題の提出・小テスト：40%、期末試験：60%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 パワーポイントによる講義を行う。			
【授業計画】 第1回：イントロダクション 第2～3回：経営戦略とは 第4回：ミッション 第5回：ドメイン 第6回：環境・資源分析 第7回：成長ベクトル 第8回：多角化 第9回：製品・ポートフォリオ・マネジメント 第10回：成長戦略の展開 第11回：業界の構造分析 第12回：競争の基本戦略 第13回：バリューチェーン 第14回：競争戦略の展開 第15回：講義のまとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 <予習> 日頃から新聞やインターネットなどを活用し、企業の経営活動や経営学に関心をもっておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと。 <復習> 定期的に課題レポートを課すので、それに向けた講義内容の理解を深めておくこと。			
教科書・参考書等 教科書： ・井上善海・大杉奉代・森宗一（2015）『経営戦略入門』中央経済社。2,376円 参考書： ・井上善海（2011）『7つのステップで考える戦略のトータルバランス』中央経済社。1,944円 ・井上善海・佐久間信夫編著（2008）『よくわかる経営戦略論』ミネルヴァ書房。2,700円 ・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略（第3版）』有斐閣アルマ。2,160円 ・網倉久永・新宅純二郎（2011）『経営戦略入門』日本経済新聞出版社。3,672円			
オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 進行状況に応じて授業計画を変更することがある。私語など、他の受講者の迷惑になるような行為は慎むこと。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 321040) 原価会計論 Advanced Bookkeeping	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目	簿記入門および会計学・経営学関連の授業	
	履修推奨科目	簿記入門	
学習時間	講義90分×15回＋自学自習		
授業の概要 車や電気製品の原価はどのように決められるのだろうか？という疑問を持ったことはありませんか？現代では、製造業だけでなく、サービス業においても、原価をマネジメントすることがたいへん重要となっています。 本講義では、原価の計算の仕方、つまり原価計算の基本的な方法を、複式簿記を用いて説明していきます。なぜなら、通常、原価計算は、複式簿記の原理に基づく工業簿記の中で用いられており、この有機的な関連を学習することは、企業を会計的な側面から観察する時に非常に役立つからです。具体的には、工業簿記・原価計算のしくみの基礎とその記帳処理を学習していきます。			
授業の目的 「原価（コスト）」の理解は、日常生活だけでなく経営学やマーケティング、会計学を学んでいく上でも重要となります。なぜなら、全ての活動には「原価（コスト）」が必ず関わってくるからです。したがって、この授業の目的は、「工業簿記と原価計算の基本原則を理解し、実践できる」となります。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
(1) 複式簿記の原理を理解し、仕訳、転記および帳簿の締め切りができる。 (2) 製造企業の中で行われる工業簿記のしくみを理解し実践できる。 (3) 基本的な原価計算の理論を理解し計算ができる。			
成績評価の方法と基準 期末テスト (ただし、60点に満たない場合には、理解度クイズの得点を加算し、60点以上になれば「可」のみを与える。)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 [授業の方法] 口述筆記、板書、プリント配布、理解度クイズ [授業計画] (第1週) ガイダンス (第2～4週) 複式簿記の基礎 (第5～6週) 企業活動と工業簿記 (第7～11週) 原価の構成要素と記帳処理 (第12～13週) 総合原価計算と記帳処理 (第14・15週) 個別原価計算と記帳処理 [自習学習の] <原則> 毎週、理解度クイズの提出があるので、それを解くことなどを通して、しっかり復習を進めて下さい。 (第1週) この授業の位置づけを理解して下さい。 (第2～4週) 複式簿記の基礎の復習です。専門用語、表への記入の仕方、仕訳、転記、振り替え、決算手続きなど、複式簿記の総復習です。 (第5～6週) 工業簿記・原価計算の目的や流れを復習して下さい。 (第7～11週) 材料費、労務費および経費の詳しい処理を復習して下さい。 (第12～13週) 総合原価計算の原理と計算を復習して下さい。 (第14・15週) 個別原価計算の原理と記帳処理を復習して下さい。			
教科書・参考書等 [教科書] 宮脇秀貴「工業簿記の基礎(改訂版)」セキ株式会社、2019年 [参考書] 溝口一雄「例解工業簿記」中央経済社、溝口一雄「最新原価計算講義」中央経済社、岡本 清「原価計算」 国元書房			
オフィスアワー	毎週水曜日「15:30～17:00」(ただし、会議などでいない場合もある)		
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず予習・復習を行うこと。特に、復習は欠かせません。簿記は、半分が「理論」で、残り半分が『技能』です。また、簿記は積み上げ式なので前回の内容が理解・実践できていないと授業の中盤以降はついてこれなくなりますが。前回の内容が確実かつスピーディーにできるようになってから次回の授業に臨んで下さい。			

ナンバリングコード B3BSN-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322111) 経営学原理 Theory of Business Firm and Management	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 柴田 明	関連授業科目	現代企業論、経営学史、企業倫理、経営史、 経営組織論、経営戦略論、その他経営学・会計学関連の科目	
	履修推奨科目	経営学入門	
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要 経営学や、その主要研究対象である「企業」や「経営」に関する基本的知識を概説する。 特にこの講義では、「新制度派経済学」あるいは「組織の経済学」の観点から、組織、企業境界、戦略、コーポレート・ガバナンスなどの問題に焦点を当てることで、現代の企業経営における実践的問題と関連させながら経営学の基本概念を概説していく。			
授業の目的 経営学の基本的知識、ならびに経営学の主要な研究対象である「企業」やその「組織」「戦略」の問題など、企業経営の基本的特徴を理論的に理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学や企業経営の基本的知識を習得できる。 ・新聞やニュースで見聞きする現代企業経営問題を理論的に説明できる。 ・現代企業経営が抱える問題に対する実践的解決策を探索できる。 			
成績評価の方法と基準 講義内レポート (80点) + 講義内小課題 (20点) + α (すぐれた意見や質問の提出など)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業及び学習の方法】 講義による。 板書orレジュメに沿って講義を進め、参考資料としてパワーポイントを使用する。			
【授業計画】 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 経営学とは何か? 3. 企業境界①「企業はなぜ存在するのか?」コースの見解 4. 企業境界①「企業はなぜ存在するのか?」ウィリアムソンの見解 5. 企業境界②さまざまな企業組織の形について: 基本的組織形態 6. 企業境界②さまざまな企業組織の形について: 中間組織 7. 企業境界③企業境界とダイナミック・ケイパビリティ 8. 経営戦略①これまでの経営戦略論 9. 経営戦略②企業境界と経営戦略 10. 経営戦略③ダイナミック・ケイパビリティと経営戦略 11. 企業統治①エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス: 基本理論 12. 企業統治②エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス: 日本型コーポレート・ガバナンス 13. 企業統治③エージェンシー理論とコーポレート・ガバナンス: 最新の動向 14. 企業経営をめぐる最新の動向: GAF A、CASE、AI 15. まとめと今後の展望 <p>※進行状況に応じて授業計画を変更することがある。</p>			
【自学自習に関するアドバイス】 2 経営学とは何か、どのような学問かと意識しておくこと。 3-14 参考書を適宜参照しつつ、普段から組織や戦略、ガバナンスなど、企業経営の主要領域について、新聞やインターネットなどを通して関心を持っており、現象を理論的に解釈することを心がけておくこと。			
教科書・参考書等 特定の教科書は使用しない。			

参考書は以下の通り。

- ①吉田和夫／大橋昭一監修、深山明／海道ノブチカ／廣瀬幹好編『最新基本経営学用語辞典 [改訂版]』同文舘出版、2015年。
- ②菊澤研宗著『組織の経済学入門—新制度派経済学アプローチ【改訂版】』有斐閣、2016年。
- ③ダウマ／スクルーダー著、丹沢安治ほか訳『組織の経済学入門 [第3版]』文眞堂、2007年。
- ④ピコー／ディートル／フランク著、丹沢安治ほか訳『新制度派経済学による組織入門 [第4版] —市場・組織・組織間関係へのアプローチ』白桃書房、2007年。

その他については別途指示する。

オフィスアワー 非常勤講師による集中講義のため、講義期間中に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・進行状況に応じて授業計画を変更することがある。
- ・私語など、他の受講生の迷惑になるような行為は慎むこと。場合によっては退出、履修取り消しなどの措置をとる。
- ・救済措置には一切応じない。まじめに授業に取り組むこと。

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322131) 現代企業論 Contemporary Business	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 張 暁紅	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本講義では、企業はいかなる形態をもつのか、どのように経営活動を行っているのか、現代企業の社会における責任とはなにか、などの問題について学習する。			
授業の目的 「企業」という組織形態に対する認識を高めつつ、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、企業と社会との関係の知識を得る。 日頃企業に関するさまざまな話題に関心を持ち、講義内容とリンクさせて思考する習慣をつけること。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
現代企業に関わる基礎的知識と理論が習得できる。 新聞やニュースなど、日常的に接する現代企業の話題を講義内容とリンクさせて思考し、分析することができる。			
成績評価の方法と基準 期末試験70%、レポート30%で評価を行う。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：現代企業論講義で何を学ぶか？ 2. 企業の諸形態 3. 株式会社①株式と資本金 4. 株式会社②所有と経営の分離、所有と支配の分離 5. 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業①長寿企業 6. 継続的に財・サービスを提供する機関としての企業②企業の製品戦略 7. 企業と社会①企業の経済的な役割 8. 企業と社会②企業の社会的責任 9. 日本のトップマネジメント組織と企業統治①日本の企業統治 10. 日本のトップマネジメント組織と企業統治②日本の企業統治の形成要因 11. 欧米諸国のトップマネジメント組織と企業統治 12. 日本の企業統治の変容①ドキュメンタリー鑑賞 13. 日本の企業統治の変容②講義 14. 企業の成長とイノベーション 15. まとめ 定期試験			
教科書・参考書等 教科書は使用しない。レジュメを配布する。 参考書：①三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』第3版、有斐閣アルマ、2012年 ②佐久間信夫編著『よくわかる企業論』第2版、ミネルヴァ書房、2016年			
オフィスアワー 火曜日の三時限目。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 私語などほかの受講生の迷惑をかける行為はしないこと。			

ナンバリングコード B2BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322245) リスクと保険 Introduction to Risk and Insurance	科目区分	時間割 後期水1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目	保険システム論等	
	履修推奨科目	保険システム論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 我々は、様々なリスクに取り囲まれており、それらのリスクに対処する必要があることはいうまでもない。本講義では、保険を中心にリスク処理手段についてごく基礎的な内容を概説する。			
授業の目的 リスクおよび保険のごく初歩的な知識を身につけることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
リスクの処理手段に関心をもつことができる。 保険制度の初歩的な知識を修得する。			
成績評価の方法と基準 期末試験により評価する (100%)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記, 板書等 (1) ～ (4) リスク及びその類概念 (5) ～ (7) 保険の仕組み (8) ～(11) リスク・マネジメントの枠組み (12) ～(13) リスク・コントロール (14) リスク・ファイナンス (15) まとめ 自学自習について 授業中の指示に従い、提示された書籍、新聞記事などを確認すること。 必ず復習しておくこと。 なお、授業計画を変更することがあるので注意されたい。			
教科書・参考書等 教科書：使用しない。 参考書：適宜指示する。			
オフィスアワー 水曜日の2校時。変更する場合には講義中に指示する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ シラバスで授業計画を示しているが、教育効果を高めるために、実際の進捗状況をみながら授業計画を変更することがあるので注意されたい。 講義中には、私語ならびに本講義と関係のない作業をしてはならない。度重なる場合には単位を認定しない。 講義中には写真撮影・録音を禁じる。携帯・スマートホンの電源を切っておくこと。			

ナンバリングコード B3BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322019) 経営組織論 Organization Theory	科目区分	時間割 前期火4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目	経営管理論、経営戦略論、人的資源管理論	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論を紹介した上で、今日の企業経営におけるマネジメント上の課題について検討する。			
授業の目的 この授業では、組織現象に対するさまざまな研究アプローチや基礎理論にかかわる知識を習得する（学士課程のDP「知識・理解」に対応）。また、それらの知識を活かし、企業活動に関わる組織的な課題を整理し、自己の問題意識と関連づけて探求できるようになることを授業の目的とする（学士課程のDP「問題解決・課題探求能力」に対応）。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
組織のマネジメントに関わる基礎的な理論を理解し、説明することができる。 企業活動に関わる組織的な課題について理論と関連付けて説明を行うことができる。			
成績評価の方法と基準 コメントカード (30%)、期末試験 (70%) により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 1. イントロダクション（組織論とはどのような学問か） 2. 組織を動かす基本設計 3. 組織を動かすメカニズム 4. 効率的に目標を達成する——組織の構造 5. 個人に能力を発揮してもらおう——モチベーションとリーダーシップ 6. ベクトルを揃える 7. より良い意思決定を行う 8. 環境と折り合う 9. 個々人の成長を促す 10. 新たなことを学ぶ 11. 外の力を活かす 12. 組織を変える 13. 事例検討1 14. 事例検討2 15. まとめ 進捗状況に合わせ、授業計画を修正する場合がある。 【授業および学習の方法】 経営組織のマネジメントにかかわる諸理論について講義する。理論と現実の接合がはかれるよう、適宜、事例の紹介やエクササイズ、映像教材等を使用する。基本的にテキストに沿って進めるので、事前に予習して内容を把握しておくことが望ましい。授業後に参考になった点、質問等のコメントをカードに記入してもらい、回収する（moodle上で実施する場合もある）。			
教科書・参考書等 鈴木竜太 (2018) 『経営組織論 (はじめての経営学)』 東洋経済新報社 (税込み2376円/生協にて販売)			
オフィスアワー 開講時にアナウンスする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 遅刻、私語厳禁。 積極的な質問を歓迎する。 授業関連の補足説明等はmoodleに掲載するので必ず確認すること。 17E以前の学生には経営組織論Aとの読み替え科目となります（経営組織論Aの単位を修得済みの学生は本講義は受講できません）。			

ナンバリングコード B1BSN-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード:322190) マーケティング論A Marketing A	科目区分	時間割 前期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B1BSN	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 趙 命来	関連授業科目	マーケティング論B、流通システム論A, B	
	履修推奨科目		
学習時間 90分×15回 + 学習時間			
授業の概要 本講義は、企業のマーケティング活動に焦点を当て、その論理と実際を理解するものである。企業がマーケティング発想を持つとはどういうことなのか、マーケティング活動（たとえば、市場創造、製品開発、ブランド構築、顧客管理など）はどのように行われるのかといった企業のマーケティング・マネジメントを学ぶ。			
授業の目的 マーケティング・マネジメントを学ぶことによって、マーケティングが世の中でどのような役目をはたしているのか、われわれの生活とどのようなかかわりを持つのか、また現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役にたつのかなどを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. マーケティングの考え方や最低限の基本理論が理解できる。 2. マーケティングがわれわれの生活にどのようなかかわりをもつかが理解できる。 3. 現場でマーケティングをうまく実践するために理論がどのように役に立つかが理解できる。			
成績評価の方法と基準 レポート20%、小テスト30%、期末試験50%により評価する。詳細については第1回目の授業で説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第 1 回：イントロダクション及びマーケティング発想の経営 第 2 回：マーケティング論のなりたち 第 3 回：マーケティング論の基本概念 第 4 回：戦略的マーケティング 第 5 回：製品のマネジメント 第 6 回：価格のマネジメント 第 7 回：広告のマネジメント 第 8 回：チャネルのマネジメント 第 9 回：サプライチェーンのマネジメント 第 10 回：営業のマネジメント 第 11 回：顧客関係のマネジメント 第 12 回：顧客理解のマネジメント 第 13 回：ブランド構築のマネジメント 第 14 回：ブランド組織のマネジメント 第 15 回：企業の社会責任 【自学自習に関するアドバイス】 今回の講義内容について、テキストの各章を事前に読んでおくこと。			
教科書・参考書等 教科書 石井淳蔵・廣田章光（編）『1からのマーケティング第3版』、碩学舎、2009年 参考書 石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文（編）『1からのマーケティング・デザイン』、碩学舎、石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』、ちくま新書、2010年。			
オフィスアワー 随時、研究室にて受け付けます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 成績評価などの履修上注意事項の説明を行うため、第1回目の授業に必ず出席すること。 受講のマナー（私語、遅刻など）を守ること。			

ナンバリングコード B2BSN-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322260) 流通システム論A Distribution System Theory A	科目区分	時間割 後期火1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 渡邊 孝一郎	関連授業科目	流通システム論B、マーケティング論A, B	
	履修推奨科目	経営学関連科目	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 現代の経済社会において快適な日常生活を送るためには流通は欠かせない。ただ、この快適な生活を支えている流通システムは自然にできあがったものではなく、革新的な商業者が絶え間ない試行錯誤によって生み出してきたものである。 そこで本講義では、流通システムの役割・意義・特徴等の理解から始まり、個別業態の具体的な成立過程や内容・特徴・課題点などを社会的・歴史的・理論的背景と連動させながら理解する。特に、この講義では流通システムの革新性の発展過程に注目する。			
授業の目的 いつ・どこで・誰によって・どのような背景のもと、日本の流通システムが出来上がってきたのか、それを理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
この講義の到達目標は以下の4つである。 1. 流通に関する基礎的な知識・理論を習得できる 2. 流通システムが発展してきた革新の過程を社会的・歴史的・理論的背景とともに理解できる 3. 流通システムに関する抽象的概念と具体的事例を結びつける論理的思考力を身につけられる 4. 日常の出来事について、流通・流通システムの視点から考えることができる			
成績評価の方法と基準 評価方法は講義への理解度(15%)、中課題(15%)、最終試験(70%)で判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1)はじめに：授業オリエンテーションと、流通に対する関心を引き出します (2)流通システム論の基礎：①流通とは？：流通の役割や特徴など、流通の基礎的な知識を学びます (3)流通システム論の基礎：②売買集中の原理他：商業者の存在意義に関する基礎的理論等を学びます (4)流通システム論の基礎：③日本の流通構造：日本における流通構造の変化・特徴について学びます (5)小売業態の革新：①商店街：流通システムを支えてきた商店街の革新性について学びます (6)小売業態の革新：②呉服系百貨店：流通近代化の先端事例である呉服系百貨店の革新性について学びます (7)小売業態の革新：③電鉄系百貨店：新しい形としての百貨店である電鉄系百貨店の革新性について学びます (8)小売業態の革新：④流通系列化：流通系列化とは何か、なぜ流通系列化という現象が発生したかについて学びます (9)小売業態の革新：⑤総合スーパー：1960年代以降の流通近代化の象徴である総合スーパーの革新性について学びます (10)小売業態の革新：⑥食品スーパー：日常生活に密着した食品スーパーの革新性について学びます (11)小売業態の革新：⑦コンビニエンスストア：現代生活に欠かせなくなったコンビニの革新性について学びます (12)卸売業の革新：消費者の見えないうちで流通を支える卸売業とは何かについて学びます (13)流通システム論の応用：①延期と投機の理論他：流通システムの効率性を考える上で欠かせない理論等について学びます (14)流通システム論の応用：②商業集積と外部性：商業集積が成立する根拠や商業集積の管理問題等について学びます (15)おわりに：これまでの授業の復習と試験について解説します 【自学自習に関するアドバイス】 事前学習：身のまわりの流通活動や市場の動きに日頃から関心を持ち、興味を持ったものをメモすること 事後学習：次の講義までに、配布プリント・参考書等の該当箇所をふりかえり、自身の講義ノートを補完すること			
教科書・参考書等 教科書：特に指定なし。(講義中配布のプリントで対応)			

参考書：①石原武政・竹村正明・細井謙一編著(2018)『1からの流通論 第2版』碩学舎(2400円+税) ②崔相鐵・岸本徹也編著(2018)『1からの流通システム』碩学舎(2400円+税)

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mailでアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

私語をはじめとする授業の妨げとなる行為、また授業参加への意欲が著しく低下している学生については、教育的指導を行う。

なお、この講義は流通システム論Bと関連しており、流通システムをより理解するためにも引き続き流通システム論Bを履修することが望ましい。

ナンバリングコード B2BSN-bacE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 320303) 会計学総論 Basic Accounting	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2BSN	DP・提供部局 bacE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 恩芝	関連授業科目	会計学関連科目	
	履修推奨科目	簿記原理	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 本授業では、会計学の基礎的な知識を習得することに、重点を置きます。 まず、会計とは何か、なぜ会計情報が必要なのかの定義から、営利企業の開示する会計情報の機能、そこから企業活動の大まかな流れを読み取ります。 そのうえで、その根底にある理論的な概念と考え方について学習します。 このように、本授業では、会計学の詳細「各論」の基礎となる「総論」について学習します。			
授業の目的 講義を通して、会計全般の基礎的な知識を身に着けることを目的とします。 これからの、より専門的な会計授業、つまり「各論」の学習に対応できるように、基礎的な会計への理解と体力づくりのために、この授業は欠かせません。 また、企業の会計情報から企業の経済活動の実態を読み取る能力も備えましょう。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 会計の基本的な仕組みを学習することで、企業の財務情報の全体像が理解できます。 2. 企業の経済活動をまとめた財務情報が、会計理論と基準、根拠となる考え方によって異なることを知ることができます。 3. そのうえで、今の会計情報がどのような考え方に基づいてできているのかを理解することができます。			
成績評価の方法と基準 受講態度 (10%)、中間テスト (40%)、期末テスト (50%) 中間テストで合格点をとった人のみ期末定期試験が受けられます。 なお、受講態度は出席を意味するものではありません。 あくまでも受講時の態度です。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 まず、会計、主に財務会計の基礎概念を丁寧に説明します。 そのうえで、会計情報を作る基礎として会計理論と基準、処理方法について理解を深めます。 進行状況によっては、内容が前後したり、省略することもあります。 第 1回 共通言語としての会計 第 2回 会計の情報利用者 t 財務諸表の基礎 第 3回-第4回 会計理論と会計基準 第 5回-第6回 利益測定と資産評価の基礎 第 7回-第9回 資産と損益項目 第10回 中間総括 第11回-第12回 負債項目 第13回-第14回 純資産項目 第15回 連結財務諸表 期末試験			
教科書・参考書等 テキスト 必要に応じて適時指示します。 参考書 桜井久勝『財務会計講義 (最新版)』中央経済社。			
オフィスアワー 木曜3限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。 簿記の知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。 なお、講義初日には必ず出席してください。必要な注意事項や講義計画、試験などに関する説明を行います。			

ナンバリングコード B3BSN-bcaE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 322165) 管理会計論 Management Accounting	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3BSN	DP・提供部局 bcaE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目	会計・経営学関連科目	
	履修推奨科目	簿記・会計関連科目	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 マネジメントのための会計である管理会計を初めて学ぶ学生のための授業です。本授業では、管理会計の基本的な概念、技法、考え方などを学習し、さらに経営管理にどのように実践されているかについて考えていきます。			
授業の目的 経営管理に役立つ管理会計の基礎知識を身につけること (DPの「知識・理解」に対応) を目指します。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 財務諸表をもとに企業活動を評価できる。 2. 利益管理と原価管理に役立つ原価概念、諸技法を説明できる。 3. 意思決定と業績評価のための管理会計技法を習得できる。 4. 経営管理プロセスで管理会計情報がどのように役立つのかについて説明できる。			
成績評価の方法と基準 レポート (0~10%)、中間テスト (40~50%)、期末テスト (40~50%) の成績などを総合的に評価して最終成績を決定します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 口述筆記、プリント、Power Pointなどを活用して説明します。			
第 1回 インTRODakション【授業の概要と進め方】 第 2回 管理会計のフレームワーク 第 3回 原価の概念 第 4回 標準原価管理① 第 5回 標準原価管理② 第 6回 財務分析① 第 7回 財務分析② 第 8回 中間テスト 第 9回 利益計画① 第10回 利益計画② 第11回 事業部制会計 第12回 設備投資の経済計算 第13回 ABC/ABM 第14回 原価企画 第15回 品質原価計算 第16回 期末テスト			
教科書・参考書等 【教科書】 高栢 真一編著『管理会計入門ゼミナール』創成社、2012年 (生協の書籍部にて購入) 【参考書】 講義において適宜紹介します。			
オフィスアワー 月曜日3時限目、朴研究室において随時、質問・相談などに応じます。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業計画は、授業の開始時点での予定であり、開始後の進捗状況により変更する場合があります。			

ナンバリングコード B2GE0-bcdE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 331020) 観光学概論 Introduction to Tourism	科目区分	時間割 後期金5	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bcdE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山田 香織	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回＋自学自習			
授業の概要 観光は今日、われわれにとって非常に身近な行動・現象ということが出来ます。では学問的見地にたったとき、わたしたちは、この観光という事象をどう読み解くことができるでしょうか？観光とは何でしょうか？観光学とはどういう学問なのでしょう？ この講義では、3つの観点から観光に迫ることで、この問いを考えます。ひとつは歴史的観点から。観光に関する歴史の変遷の理解です。二つ目は産業という側面。観光は今日、持続可能性のある産業、地域振興に有用な産業・実践として注目されており、これに関する政策や経営、まちづくりの実態把握はさまざまです。最後は現象分析という側面。日常に浸透している観光をめぐる行為や現象は、社会様態や人びとの価値観、文化特性を映し出す絶好の鏡にもなりえます。 ダイナミックな動きのただなかにある観光という事象を多角的に概観することで、観光とは何か、観光学とはいかなる学問かを思考し、その現場を捉える視点を養いましょう。 授業は原則、講義形式としますが、テーマ等によってはグループワークをおこなうこともあります。また、授業での学びを深めるための自学自習を求めることがあります。			
授業の目的 上記「授業の概要」に提示した項目について学修することで、観光とは何か、観光の現場で起きている事柄にどうアプローチすることができるのか、それによって何を明らかにできるのか、そして、観光学とはどういう学問であるのかを理解します。つまり、本科目では、観光現場を捉える視点を養うことを目的とします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 観光学という学問領域について説明することができる。 2. 今日における観光現象をとらえるための適切な視点と手法を見極めることができる。 3. 今日における観光現象を多角的に説明することができる。 4. 観光に関する自身の興味関心が大学での専門的な学びとどう関連するのかを説明できる。			
成績評価の方法と基準 授業参加態度、小レポート、期末レポートの成績で評価します。なお、期末レポートの提出は成績評価のために必須です（未提出の場合は成績評価対象となりません）。 ・授業参加態度（リアクションペーパーの提出状況とその内容） 35点 ・テーマごとの振り返り小レポート 30点 ・期末レポート 35点			
授業計画並びに授業及び学習の方法 全15回の授業は、導入（第1回、第2回）とまとめ（第15回）のほかを三部構成（①観光の歴史の変遷（第3回～第5回）、②観光による産業・地域振興（第6回～第11回）、③社会を映す鏡としての観光現象（第12回～第14回））とし、以下のとおり順次に学修していく予定です（授業進行等の関係上、予定を変更することがあります）。 (1) 授業のねらいと進め方、観光とは何か？ (2) 観光学とはどういう学問なのか？ (3) 観光の歴史①—西欧における旅と観光 (4) 観光の歴史②—日本における旅と観光 (5) 観光の歴史③—近代化とマスツーリズム、その批判とポスト・マスツーリズム (6) 観光動向概観①—観光政策と統計データ (7) 観光動向概観②—観光を構成する要素（観光地・観光資源、交通、宿泊、情報等） (8) 観光と経営①—マーケティングとブランディング (9) 観光と経営②—観光を担う組織、プラットフォーム、人材育成 (10) 観光と地域振興①—トップダウン型の観光まちづくり (11) 観光と地域振興②—ボトムアップ型の観光まちづくり (12) 観光と文化①—ホスト-ゲスト関係への着目とその変化 (13) 観光と文化②—「観光文化」の創造 (14) 観光と文化③—みやげものは物語る (15) まとめ：観光とは何か、観光学とはどういう学問なのか			

教科書・参考書等

教科書：指定しない。適宜授業内でプリント等を配布する。

参考書：以下以外に、各講義回の内容に関連する参考文献は授業内で紹介する。

- ・大橋昭一・山田良治・神田孝治（編著）『ここからはじめる観光学—楽しさから知的好奇心へ』ナカニシヤ出版、2016年。
- ・大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治（編著）『観光学ガイドブッケー新しい知的領野への旅立ち』2014年。
- ・岡本伸之（編著）『観光学入門—ポスト・マス・ツーリズムの観光学』有斐閣アルマ、2001年。
- ・橋本和也『地域文化観光論』ナカニシヤ出版、2018年。

オフィスアワー 授業終了後に応じます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語、スマホ・ケータイの操作は厳禁とします。該当する受講生には即時退出していただきます。

ナンバリングコード B2SCL-bcxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332071) グローバル社会概論 Globalization and Society グローバリゼーションと社会 Globalization and Society	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 1～経済学部
	水準・分野 B2SCL	DP・提供部局 bcxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 世界の文化と社会についてこれから勉強していくうえで、予備知識として必ず知っておくべき用語や概念について解説する。それらの用語・概念の歴史的・社会的背景についてもあわせて考察する。			
授業の目的 グローバル社会・経済を学ぶための基礎的・予備的な知識を得る。私たちが生きている世界の現在の状況と、それに至るまでの歴史的な背景を、具体的な事例から理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
世界の国・地域について、具体的にイメージすることができる。世界の言語、文化、社会の幅広い領域について深い関心を持つ。国際的なことごとらについて問題意識を持ち、自分に関わる問題として考えることができる。講義で扱った基本的な用語や概念について説明できるようになる。			
成績評価の方法と基準 平常点（授業への参加度をミニレポートで評価）20%、中間試験および期末試験80%により、総合的に評価する。毎回出席をとるので欠席しないこと。無断欠席5回で自動的に「不可」となるので注意すること。中間試験・期末試験いずれも必ず受けること。 ※出席してミニレポート用紙に名前を書くだけでは「平常点」は与えられない。必ず意見・感想・質問などを書いて提出すること。 ※中間試験と期末試験どちらか一方でも受けないと単位は与えられない。 ※しかるべき理由（病気・怪我、忌引、大会参加等）で欠席する場合は、証明書等を添えて欠席届を提出すること。就職活動で欠席する場合も、会社説明会等に出席していたことを証明するものを添えて欠席届を提出すること。 ※なお、適正な収容人数を超えた場合、他学部生の受講制限を行う。H29年度以前の入学者で、地域社会システム学科以外の学生（他学科の2年生以上および他学部生）については、受講人数制限を掛ける。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【学習の方法】 授業は必ずノートを取りながら聴く。配布されるプリント等の資料をしっかりと読み、解説された用語・概念をよく理解する。授業時に紹介される参考文献を読む。			
【授業計画】 (1) 世界の国と地域 (2) 世界の国と言語 (3) 言語と文化 (4) 人種と民族 (5) 世界の宗教 (6) 宗教・社会・経済 (7) 政治体制とその歴史 (8) 国家と国民 (9) 中間試験（試験範囲は第1回～第8回） (10) 経済のしくみ (11) 帝国主義と植民地主義 (12) 越境・移動・グローバリゼーション (13) 南北問題と東西冷戦 (14) ジェンダーとセクシュアリティ (15) メディアと社会 期末試験（試験範囲は第10回～第15回）			
教科書・参考書等 各教員が随時指定する。			
オフィスアワー 個別の講義内容については各教員に確認すること。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ この講義で扱う用語・概念はいずれもごく基本的なものです。そのつどしっかりと習得すること。遅刻、途中退出厳禁。			

ナンバリングコード B3GE0-bdxE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332020) 人間論 Theory of Human Nature	科目区分	時間割 前期水3	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 bdxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 斉藤 和也	関連授業科目	ヨーロッパ社会論、ヨーロッパ文化論、 ヨーロッパ社会経済史、近代経済史、 文化社会論	
	履修推奨科目	ヨーロッパ思想史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 この講義では、近代資本主義の精神を生み出したヨーロッパの合理主義的思考の起源と特徴を明らかにする。ヨーロッパ思想を生み出した思想的基盤には、古代ギリシアの合理的思考とキリスト教の宗教思想がある。そこで、まず、ギリシア人の合理的思考について概説すると共に、ギリシア人が非合理的要素をどのように合理的枠組みの中に取り込んでいったのかを考察する。次に、キリスト教の母体としての古代ユダヤ教の特質について概説し、そこからキリスト教が成立し、やがてそれがカトリック教会として確立していく次第を明らかにする。さらに、近代的人間観の先駆けとなった宗教改革の精神について概説し、プロテスタンティズムと近代資本主義の精神の関連性について考察する。			
授業の目的 ヨーロッパ思想の合理主義的特徴を理解するために、それを生み出した母体としてのギリシア思想とキリスト教思想の内容の理解を深めるとともに、プロテスタンティズムの影響が指摘されるヨーロッパ近代の労働観について考察する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 古代ギリシア文化とユダヤ・キリスト教文化に親しむ。 2. 哲学的・科学的思考を特徴とするギリシアの合理主義について説明することができる。 3. キリスト教の人間理解について記述し説明することができる。 4. ヨーロッパ近代の労働観について説明することができる。			
成績評価の方法と基準 小テスト数回(50点)とレポート2回(配点50点)。レポートの課題と提出日は講義の中で通知する。急病などの理由なしに提出が遅れた場合は減点する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
I. ヨーロッパ的精神とギリシア的合理主義 (第1～5回) 1. ヨーロッパ的精神と合理主義 2. ギリシア人の合理主義と人間観 II. キリスト教とヨーロッパ (第6～9回) 1. 旧約聖書とユダヤ教 2. キリスト教の成立と展開 3. キリスト教の人間観 III. 近代的人間観の成立 (第10～15回) 1. 宗教改革の精神 2. 近代資本主義の合理性 3. 近代の労働観 【授業及び学習の方法】 一方的な知識・情報の提供を避けるために、時々、講義に対する質問や意見を書いてもらい、それに答えるという形で、授業を進めていく。すべての質問に答える時間はないので、内容的に重要な質問に対して、次の時間に回答する。 各回の授業が終わったあとで次回の授業のハンドアウトを配布する。熟読してくると授業内容がよく理解できる。病欠の場合は、教員研究室まで次回のプリントを受け取りにくること。			
教科書・参考書等 ハンドアウトを配布する。			
オフィスアワー 水曜 14:40- 15:30 : 斉藤研究室 (経済学部 7号館 3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 履修上の質問は教室で行うか、メールで行ってください。アドレスは最初の講義でお知らせします。			

ナンバリングコード B3SCL-bceE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332230) 日本社会経済史 Economic History of Japanese Society	科目区分	時間割 後期火4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 bceE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山本 裕	関連授業科目	経済史入門、経営史	
	履修推奨科目	経済史入門、経営史	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 近現代日本社会経済史の概説を講義する。 その際、 ①経済成長のマクロ的考察にとどまらず、人々の暮らしと経済との相互関係及びその推移を重視する。 ②日本と東アジアとの経済的関係の歴史的推移を重視する。 以上の二つの点に留意して講義を進めていく。			
授業の目的 近現代日本の社会経済史の基礎知識を習得する。習得する上で、経済学・歴史学の方法論をもって、幕末開港から現在に至る時代を考察して、近現代日本の社会と経済の大きな流れに留意していく。 特に、 ①様々な経済現象が人々の暮らしを大きく規定してきたこと。 ②近現代日本の社会経済が東アジアの諸地域と密接に関係してきたことについて理解を深めることを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 近現代日本における地域的多様性を説明できる。 2) 一国史的枠組にとどまらず、「アジアの中の日本」・「世界の中の日本」といった、諸国家あるいは諸地域間の関連性の中で近現代日本の社会と経済の歴史を解釈して、具体的に説明できる。			
成績評価の方法と基準 期末試験(80点)と、2回の授業レポート(計20点)で成績を判断するが、任意の読書レポートを提出した者には、加点を行う(最大で20点)。また、突発的に授業アンケートを課す可能性があるが、その際、回答者には適宜、若干の可点を行う(優れた意見の提出者には、更に加点する)。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストの内容をより深く理解するためのレジュメを配布する(moodleに毎回のレジュメをアップロードする)。毎回、講義内容について、自筆ノートを作成しまとめなおすことを推奨する(なお、期末試験では、自筆ノートのみ持込可とする)。講義期間中、2回、レポートを課す。 以下の計画に沿って講義を展開する予定だが、履修者諸君の理解度等を勘案し、期待する理解度に到達していないと判断した場合には、より、ゆっくりと時間をかけて講義を行うことで、いくつかの講義単元を行わない可能性があることをあらかじめお断りしておく。 (1) イントロダクション：日本社会経済史を学ぶ意味・経済史の学習方法 (2) 近世から近代へ：幕末開港と明治維新ー経済から見た幕末・維新时期ー (3)～(4)「産業革命」と伝統的要素ー生産技術と市場制度、近代産業と在来産業ー (5) 日清・日露戦争と対外経済「進出」・植民地経営ーその社会的影響ー (6) 両大戦間期日本の社会と経済(1)：大戦好況・バブルの発生・バブル崩壊後の長期不況が与えた様々な影響 (7) 両大戦間期日本の社会と経済(2)：産業と企業を中心に (8) 両大戦間期日本の社会と経済(3)：人々の生活を中心に (9) 両大戦間期日本の社会と経済(4)：「植民圏」の社会と経済ー台湾・朝鮮・「満洲」ー (10) 戦時期の日本経済と社会(1)：戦時統制経済期の産業と企業 (11) 戦時期の日本経済と社会(2)：日本とアジアの戦時動員ー都市・農村・「植民圏」の生活ー (12) 戦後改革の諸相ー農地改革・労働改革が地域の社会経済にもたらしたものー (13) 高度成長の時代ー地域から見た高度経済成長とアジアを中心とした国際関係の推移ー (14) 高度経済成長の終焉と安定成長、バブルの発生・崩壊ー人々の生活から考えるー (15) 講義の小括 予習については、各回の講義を受講する前に、講義範囲について教科書の指定範囲を読解して、分からない用語等をメモし、調べておく。また、論旨で分からないところが何処なのか、事前に各自が把握しておく。復習については、各回の講義終了後に、講義内容を自筆ノートでまとめ直しておく(前述の如く、期末試験には自筆ノートのみ持込可とし、配布資料は持込不可とする)。			

教科書・参考書等

【教科書】宮本又郎編『改訂新版 日本経済史』（放送大学教育振興会、2012年、2700円+TAX）。生協の書籍部にて購入のこと。

各回の講義において参考文献を提示するが、大門正克・安田常雄・天野正子編『近代社会を生きる』（吉川弘文館、2003年、2,800円+TAX）、同編『戦後経験を生きる』（吉川弘文館、2003年、2,800円+TAX）、岡部牧夫『満州国』（講談社学術文庫、2007年、960円+TAX）武田晴人『新版 日本経済の事件簿—開国からバブル崩壊まで』（日本経済評論社、2009年、3,000円+TAX）、沢井実・谷本雅之『日本経済史—近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3,700円+TAX）、武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019年、3400円+TAX）は通読を望む。

また、講義において提示する図・写真等については、黒田日出男監修・帝国書院編集部編『図説 日本史通覧』（帝国書院、2019年、930円[税込]）を用いていくこととする。視覚的理解をより一層求めたいと考える受講者は、上記書籍、あるいは、高校生向けの日本史図録・図説等を手許に置いて予習・復習することを推奨する。

オフィスアワー 水曜日6限・7限（ただし、事前にメール等もらえれば、適宜対応する）。

教員のメールアドレスは以下の通り。

yamamoto@ec.kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本科目は教科書を指定するが、教科書の内容以外についても講義を行う。その旨、了承した上で履修されたい。講義で扱った内容について、自ら問いを立てるような積極的な受講態度を望みたい。

ナンバリングコード B3SCL-becE-30-Lx2 授業科目名 (時間割コード: 332422) 社会と言語 Society and Language	科目区分	時間割 前期木4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 金澤 忠信	関連授業科目	グローバル社会概論、ヨーロッパ文化論、比較近代化論	
	履修推奨科目	外国語演習、ヨーロッパ社会論、アジア社会論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ことばは日々の日常生活のなかでたえず使われているがゆえに、かえって考察の対象となることが少ない。本講義では、ごくありふれたものであるはずのことばという存在を客観的に見つめ直し、そもそもことば(言葉・言語)とは一体何なのかを確認・定義したうえで、言語と社会とがいかに密接な関係にあり、いかに相互に依存し合っているかを考察する。また、世界にはどのような、どれくらいの言語があるかを知り、それぞれの言語が現在どのような状況にあるかをよく理解したうえで、言語の数だけ世界の見方(世界観)がある、すなわち言語が人間の思考や認識になんらかの影響を与えていると考える「言語相対論」について、評価と批判を含め検討を試みる。			
授業の目的 本講義は、いわゆる社会言語学(sociolinguistics)に関する概論であるが、社会言語学が取り扱うべき研究対象はきわめて多岐にわたり、しかもそれぞれの分野が高度に専門化している。そこで本講義では、社会言語学についてほとんど予備知識がなくても理解することができるよう、言語と民族、言語と性、言語と場面、言語と国家、言語と地理、言語と歴史というふうに、ある程度予備知識のある事項と結びつけながら、言語と社会の関係を考察し、社会における言語の問題について自ら気づくことができるようになる。言語の多様性を知り、世界の見方(世界観)の多様性を知り、さらに言語および世界観の多様性に関連した諸問題を知ることによって、自分とは異なる社会に属する人々に対して、敬意や共感をもって接することができるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応)。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 社会と言語の関係に関する基本的な知見を得ることができる。 2. 世界の諸地域の言語状況を具体的な事例に基づいて理解することができる。 3. 我々が生きる現代社会と言語を結びつけて考察することができ、さらに社会と言語に関する問題を自ら見出し、自ら思考することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末試験(40%)により総合的に評価する。授業への参加度は、授業終了時に提出するリアクション・ペーパーで評価する。中間レポートおよび期末試験の詳細については授業のなかで説明する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 (1) イントロダクション(この授業の概要、学習の仕方、単位の取り方など) (2) 言語の定義 (3) ことばの要素 (4) 言語の多様性(1) (5) 言語の多様性(2) (6) 言語と社会(1) (7) 言語と社会(2) (8) 言語と民族 (9) 言語と場面 (10) 言語と性 (11) 言語と国家 (12) 言語と地理 (13) 言語と歴史 (14) 翻訳と言語/翻訳の言語 (15) 補説とまとめ 学期末試験 ※進捗状況の関係でやむを得ず授業計画を変更する場合は授業時に説明する。			
【自学自習】 予習事項がある場合は次の授業までに調べて考えておく。配布される資料をよく読み、また参考文献としてあげられたものはなるべく1冊通して読む。中間レポートを作成し提出する。			

教科書・参考書等

P. トラッドギル、『言語と社会』、土田滋訳、岩波新書、1975年、720円＋税。

エドワード・サピア、『言語』、安藤貞雄訳、岩波文庫、1998年、1130円＋税。

いずれも必ずしも買わなくてかまわないが、図書館で借りるなどして目を通しておくこと。この2冊以外の参考文献については授業時に配布ないし指示する。

オフィスアワー 木曜5限。ただし事前（授業時）に相談すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

外国語や外国の文化・社会に興味・関心のある学生を歓迎します。外国語に堪能である必要はありませんが、単位だけほしいというモチベーションの低い人は途中でついていけなくなるかもしれません。よく考えて履修してください。

ナンバリングコード B2GE0-bdeE-30-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 333191) まちづくり論 Town Planning and Design 観光振興・景観デザインの視点から地域づくりを考える	科目区分	時間割 前期火2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B2GE0	DP・提供部局 bdeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 西成 典久	関連授業科目	地域活性化プロジェクト	
	履修推奨科目	観光・地域振興コース関連科目	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 近年、「まちづくり」という言葉は急速に社会に広まり、一般的な概念として定着してきています。しかし、その概念がカバーする守備範囲は極めて広く、地域経済、環境、政治、福祉、医療、子育て、コミュニティなど、あらゆる分野が「まちづくり」の領域に接合されています。 「まちづくり」という概念はこうした総合性・継続性にこそ大きな特徴があり、ある特定の領域を対象とする既成の学問分野とは一線を画しています。 本講義では、「まちづくり」という概念が有する総合性、あるいは既成の学問知をつなげていく特性を十分に理解したうえで、なぜいま「まちづくり」が求められているのかについて、具体的な事例をもとにしながら講義を進めていきます。 また、本講義では「まちづくり」を一般的概念として総合的に説明するだけでなく、特に「観光」と「景観」という専門的視点から、それぞれに必要なとされる知識や考え方について、理解を深めていきます。			
授業の目的 ①地域の問題から「まちづくり」「観光」を理解する よりよい地域社会へと導く解決策（道筋）として、「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割を理解します。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛える これまで茫漠と見ていた外的環境に対して、美や問題点を発見できる感覚を研ぎ澄ます訓練をします。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
①「まちづくり」と「観光」に求められている社会的役割が説明できる。 ②「景観」の価値に対する感性を鍛え、景観の価値について他人と議論することができる。			
成績評価の方法と基準 レポートおよびテストで成績を評価します。 毎授業でやるリアクションシートで、しっかり書いていけば加点評価していきます。 中間テストを行い、あまりにも成績の悪い学生は単位取得の資格を失います。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 基本的に講義形式をとりますが、適宜学生が発表する機会や質疑の時間を設け、できる限り参加型（ワークショップ形式）の講義とします。			
<序編> (1) 「まちづくり論」ガイダンス（概要と講義スケジュール） (2) 「日本の地域をめぐる諸問題」 (3) 「解決策としての観光まちづくり」 <基礎知識編> (4) 「観光を知る」その1 近代社会と観光の誕生 (5) 「観光を知る」その2 変化する観光とニューツーリズム (6) ワークショップ① (7) 「景観を知る」その1 工場景観と棚田の風景 (8) 「景観を知る」その2 良い景観と悪い景観をめぐって (9) 「景観を知る」その3 景観の価値と捉え方 (10) ワークショップ② (11) 「まちづくりを知る」その1 まちづくり概念の台頭 (12) 「まちづくりを知る」その2 コミュニティデザイン (13) 「まちづくりを知る」その3 世界と日本の創造都市 <結編> (14) ワークショップ③ (15) 「まちづくり論」まとめ			
※第一回の授業ガイダンスは必ず出席してください。 ※中間テストおよび期末テストを予定しています。			

【自学自習に関するアドバイス】

4回～6回 観光の歴史に関する情報を調べる。

7回～10回 景観に関する情報を調べ、文献を読む。

11回～13回 授業で紹介する文献を読む。

教科書・参考書等

西村幸夫編「まちづくり学」、中村良夫「風景からのまちづくり」、山崎亮「コミュニティデザイン」など。
テーマによって適宜紹介します。

オフィスアワー 随時、研究室（南3号館3階）にて受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

受講希望の学生は必ず「デジカメ」（スマホも可）を用意してください。写真を撮影する課題があります。

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332451) 外国語演習 I (英語) Foreign Languages I 時事英語	科目区分	時間割 後期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 水野 康一	関連授業科目	Communicative English I-IV, ビジネス英語	
	履修推奨科目	アメリカ社会論	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (週3時間)			
授業の概要 アメリカの社会, 経済などの時事問題について, アメリカのニュース放送を視聴しながら学習する。聞き取りの訓練も行う。			
授業の目的 アメリカの社会, 経済などの時事問題に関するニュース放送を視聴し, 実用英語の読み聞きに習熟することを目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1) 英字新聞やニュース映像の内容を概ね理解できる程度の英語読解力, 聞き取り能力の習得している。 2) アメリカの社会・経済が抱えている問題を理解できる。 3) TOEICで50～100点のスコアアップを目的とする。			
成績評価の方法と基準 毎週の課題提出および中間・期末試験の成績を総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
一週間前にテキスト (プリント) を配布するので, 授業までに音声ファイルを聞いてディクテーションおよび日本語訳を行う。自宅学習は毎回3時間程度を想定している。授業では, テキストの内容を確認し, 自ら修正したものを毎回提出する。 (1) ガイダンス (2)～(7) 聴解・読解演習 (8) 中間試験 (9)～(14) 聴解・読解演習 (15) 期末試験 また, 希望者を対象に週1回のチュートリアル (火曜午後を予定) を実施する。英語ニュースの学習のほか, TOEIC/TOEFL対策の演習を行う。			
教科書・参考書等 【教科書】アメリカのニュース番組 (NBC Nightly News) のほか, インターネットニュースなどを教材とする。 【参考書】適宜, 指示する。			
オフィスアワー 木曜3校時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 初回授業において, 授業の進め方についての重要事項を説明し, 次回の課題 (宿題) を出すので, 必ず出席すること。			

ナンバリングコード B3SCL-abeE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332453) 外国語演習 I (ドイツ語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期末4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abeE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 最上 英明	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 ドイツ語の初級文法で1年次に学習した事項を復習し、学習しなかった事項も学びながら、ドイツ語の読解力を養成する。日独交流の歴史を紹介したテキストを読み進めながら、日独文化交流への理解も深める。			
授業の目的 ドイツ語の初級文法を修得する。初歩的なドイツ語の読解力を確実に身につける。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
平易なドイツ語の文章が読めるようになる。 ドイツ語を通して、日独文化交流に関する知識を得ることができる。 ドイツ語検定試験3級に合格できるドイツ語能力を獲得することができる。			
成績評価の方法と基準 授業への参加状況が評価の中心になるが、試験の成績も含めて、総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 テキストを分担して読み進めていく。 (1) オリエンテーション (2)～(15) テキストの読解 (16) 期末試験			
教科書・参考書等 教科書:『日独交流400年』 杉谷恭一他 (白水社) 2200円 参考書:『必携ドイツ文法総まとめ-改訂版-』 中島・平尾・朝倉著 (白水社) 初中級の学習に耐える独和辞典 (『アポロン』、『アクセス』など、1年次に使用した辞書で可)			
オフィスアワー 月曜4時限目、またはメールでの相談。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 予習と出席が必須であることは言うまでもない。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332454) 外国語演習 I (フランス語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 モリエール フランソワ	関連授業科目	ヨーロッパ文化論、ヨーロッパ社会論、比較近代化論	
	履修推奨科目	フランス語I, II, III, フランス語会話III	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 テキスト『時事フランス語 2019年度版 (À la page - actualités françaises 2019)』を用いて、フランスの社会や文化に関する理解の向上を目指す。フランス人の思考法や日常生活を知り、日本人とフランス人の違いについて議論する。			
授業の目的 授業では、身近なトピックを掲載するテキストを通して、生きたフランス語を読み解く力をつける。基礎的な文法事項を復習し、語彙やさまざまな表現を身に付けつつ、フランス語の長文を正確に読み、仏文読解のテクニックを学ぶ。フランスの政治・経済・社会・文化を知ることが目的とする。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
フランス語の基礎的運用能力の定着を目指すと同時に、フランス語の初歩的なテキストを読解できる力を習得する。現代のフランス人の考え方やフランスが直面している社会問題を知る。			
成績評価の方法と基準 平常点 (授業への積極的な参加および宿題)、中間試験、期末試験により、総合的に評価する。平常点40%、中間試験30%、期末試験30%。少なくとも2/3 (10回) は出席すること。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業の方法】 教科書は全部で20 課あるが、授業ではそのうち半分程度を扱う。詳細については初回の授業で指示する。毎回の授業で読む課の予習復習を必ずする。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション (この授業の概要、単位の取り方、学習の仕方の説明) 第2～7回 教科書 第1～4課 第8回 中間試験 第9～15回 教科書 第5～9課 学期末試験			
【自学自習に関するアドバイス】 講読の授業なので、指定されている範囲の文章に目を通し、わからない語彙の意味と用法を調べ、ノートに記入する。その内容を覚え、定期的に復習する。また、事前に教材の文法事項を予習し、練習問題をこなし、不明な点があれば、授業で積極的に質問をする。			
教科書・参考書等 加藤晴久/ミシェル・サガズ、『時事フランス語 2019年度版 (À la page - actualités françaises 2019)』、朝日出版社、1,900円+税 (生協の書籍部にて購入)。			
オフィスアワー 講義終了後			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 読解力と異文化の理解力を養う授業なので、フランス語を学ぶ意欲と、フランスに関心のある学生を歓迎します。長文を読む・理解することは大変なので、安易な気持ちで履修すると授業について行けなくなるでしょう。難しいことに挑戦する一方、様々なテーマについて議論し、楽しい授業を行うつもりです。			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-3N-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332452) 外国語演習 I (中国語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期月2	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 3N
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 高橋 明郎	関連授業科目	外国語会話 (中国語)	
	履修推奨科目	アジア社会論、アジア経済論、アジア文化論	
学習時間 授業90分×15回+自学自習			
授業の概要 中国語学習1年半以上のレベルを対象に、映画・ドラマ・バラエティ番組・ドキュメンタリーなどを題材とし、日本語との置き換えを念頭に、よく使用されるフレーズを学習する。最初は日本語の音声に中国語字幕が付されているものから始め、後半は音声も中国語の字幕付き映像を使用する。対象とする教材は教員が指示した候補の中から自由に選ぶことができる。			
授業の目的 既に学習した語法や語彙が、実際の場面でどのように使われているかを確認しながら、中国語の言い回しや、スピードに慣れる。(DPの「言語運用能力」に対応)			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
1. 放送や映像で使用されている中国語のうち頻出する表現に慣れる。 2. 日本語でよく使うフレーズは中国語でどう表現されるかを理解する。 3. 映像の背景となる中華圏の習慣について理解する。 4. 中国語の自然なスピードで文を読むことができる。 5. 頻出する漢字の発音は辞書を頼らずに発音できる。			
成績評価の方法と基準 割り当てられた部分の準備と授業時間内の各種練習の成果による。最終試験(口頭表現中心、試験期間の試験は行わない)の比率は40%。平常のエクササイズと課題の得点は60%で、その得点に出席率をかけて判定する。また5回欠席した学生は受講したものとみなさない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1週 担当グループの編成(特別履修プログラムの学生とその他の学生をペアにします)と以後の準備方法の説明 第2週～第6週 音声は日本語、中国語字幕の教材による練習 第7週 ここまでの表現のエクササイズ 第8週～第14週 音声、字幕とも中国語の教材による練習 第15週 後半の表現のエクササイズ 学習の方法 担当部分についての資料作成 ①セリフ及び字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付ける。なぜ字幕のような中国語になるかについて、既習の語法を復習して、説明できるよう準備する(前半)字幕を簡体字で筆写し、ピンインを付し、訳をつける。(後半) ②各授業後指示されたフレーズについてまとめて、次週までに中国語⇄日本語の転換ができるようにする。 (なお、受講者の数や構成によって指示する予習内容が変わることがある)			
教科書・参考書等 教科書は不要だが、現代中国語辞典(光生館)中日辞典(小学館)レベルの辞書は必要。電子辞書でも可。			
オフィスアワー 月曜 5時間目			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 共通教育の中国語4単位以上修得している学生が履修できるが、2年前期まで継続して履修していた方が望ましい。(グローバル人材プログラムの学生は上記単位数の限りではない) 字幕の多くは繁体字で付いており、簡体字、繁体字双方に慣れてもらう。 「高学年教養科目」として履修する場合も、2年次以上で上記条件を満たした者に限る。 (中国語検定3級、HSK4級以上を既に取得している1年生は受講を認める場合があるので、直接担当教員に照会すること)			

ナンバリングコード B3SCL-abxE-30-Ex2 授業科目名 (時間割コード: 332455) 外国語演習 I (韓国語) Foreign Languages I	科目区分	時間割 後期金4	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3SCL	DP・提供部局 abxE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 河 智弘	関連授業科目	初修外国語「韓国語」	
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 全学共通教養科目の初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を取得した学生を対象に、引き続き韓国語能力を維持し伸ばすことができるような内容を扱う。 韓国語の基礎を確認しながら、中級レベルの韓国語力、特に読解力・作文力を身につける。 時事的な話題の読解や、自ら表現する作文力を通じて中級レベルの韓国語を身につける。あわせて現在、韓国で起きていることについての知識や関心を涵養する。			
授業の目的 韓国語の基礎を確認をして確実に身に付け、さらに上の中級レベルの韓国語の力を獲得する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
語彙・文法において中級レベルの韓国語を身につける (韓国語能力検定3・4級レベル、ないしハングル能力検定試験4・3級レベル)			
成績評価の方法と基準 中間・期末試験、出席、宿題を含む授業参加態度を総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 教材に沿って学び進め、そのあいまあいまに、学んだ文法事項や表現が出てくる文章を課題文章として読む作業や、作文作業を織り込む。 ※全学共通教養科目の初修外国語「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を取得済みの学生のみ履修可能である。			
教科書・参考書等 初回授業で指示する。			
オフィスアワー 授業時間後に休み時間に質問・相談に対応する。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 全学共通教養科目の初修外国語の韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を取得済みであること。 担当教員(河(ハ))は韓国語ネイティブであるので、積極的に「韓国語で」関わってほしい。			

ナンバリングコード B3GE0-becE-30-Lf2 授業科目名 (時間割コード: 333201) 地域活性化論 Regional Vitalization Studies	科目区分	時間割 前期金1	対象年次及び学科 2～経済学部
	水準・分野 B3GE0	DP・提供部局 becE	対象学生・特定プログラムとの対応 30
	授業形態 Lf	単位数 2	
担当教員名 原 直行	関連授業科目	とくになし	
	履修推奨科目	とくになし	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習			
授業の概要 農山漁村地域・多自然地域での活性化を中心に、地域活性化全般について講義する。先進事例を中心に活性化手法（地域づくり手法）について説明する。また、教員が携わっているフィールド（地域）での取組みとその手法についても解説する。 授業中に受講生の考えを発表する機会を作るので、能動的な姿勢での受講が求められる。単位認定の条件として、受講生は各自でまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムのツアーに参加すること。			
授業の目的 地域活性化に必要な知識を習得する。グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例を知ると同時に、地域の課題解決方法についても理解する。			
到達目標			学習・教育到達目標 (工学部JABEE基準)
<ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村を中心に地域活性化の現状についての知識を習得できる。 ・グリーン・ツーリズムなどの観光やアートによる地域活性化等の事例についての知識を習得できる。 ・地域の課題解決方法について理解できる。 			
成績評価の方法と基準 ①受講生各自で参加したまち歩き、グリーン・ツーリズム、エコツーリズムツアーについてのレポート（形式自由。800字程度） ②上記とは別に課題レポート ③期末テスト ※予定であり変更の可能性があるので、講義には出席し、教員の説明をよく聞くこと			
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 地域活性化とは 第2回 地域づくり手法 第3回 経済的地域活性化 第4回 RESUSの活用 第5回 観光情報の活用 第6回 観光DMO（香川県） 第7回 観光DMO（先進事例） 第8回 地域観光と旅行会社との連携事業 第9回 地域交通と鉄道会社との連携事業 第10回 グリーン・ツーリズム論 第11回 瀬戸内地域活性化プロジェクトの事例 第12回 アートによる活性化 第13回 瀬戸内海と里海 第14回 移住・定住 第15回 まとめ ※進捗状況によって内容や順番が変更することがある。 ※自学自習は授業の前後に適宜指示する。			
教科書・参考書等 とくになし。参考文献は講義時に適宜紹介する。			
オフィスアワー 木曜1限			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 地域活性化、とくに農山漁村、多自然地域での活性化に興味のある学生の受講を希望する。			